

## 無線と出会った日

JA1JAO 村田 伸

最近、昔のことが無性に懐かしく思い出されるのも、年のせいだろうか。

無線に係わる事や人達、それらの思い出は今、私の人生の宝物だ。

5球スーパーのIFに混入するA2電波が、小学生の私と無線との初めての出会いかも知れない。モールスの点と棒を紙に書き取り、コード表から解読してみたが、JCSがQTCが何の意味なのかわからない。

それから、中学生の私と杵鞭さん（現JA1NUJ）が友達から作り方を教えてもらい、6WC5のワイヤレスマイクで毎晩おしゃべりしたのがハムを知るきっかけだった。

それから短波の世界を知り、短波受信機の製作に夢中になり、高校生の時電信級で開局した。



昭和40年頃のシャック

それからは多くの人達と巡り会い、同時に私の人生も幅広く充実していったと言える。

JA1CAJ 石渡さんからは水晶や、送信管などをいただき、パンザマストに登ってアンテナの手伝いをしたときは足が震えたのを覚えている。

JA1GIV 川野さんからは開局前の送信機設計のアドバイスをいただいたり、地1号受信機を譲っていただいたり、開局してから和文でのラグチュウのお相手いただいたりで、今も7メガでお会いしている。

JA1GXP 竹田さんは、スーパーローカルで毎晩のように行ったり来たりして、無線を超えた付き合いが長く続いたが、残念ながら富士山での遭難で帰らぬ人となってしまった。

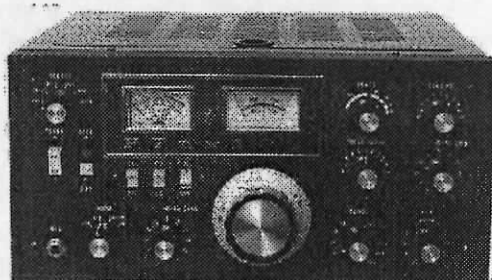
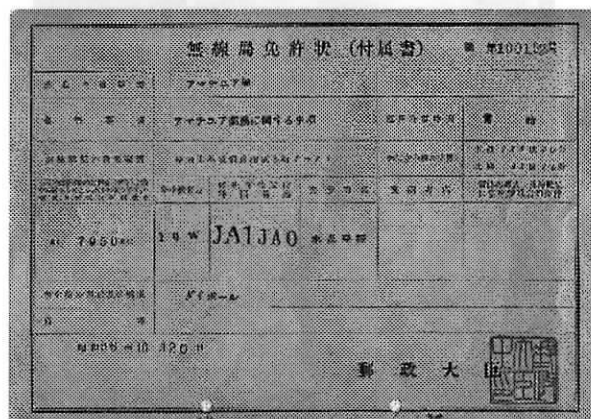
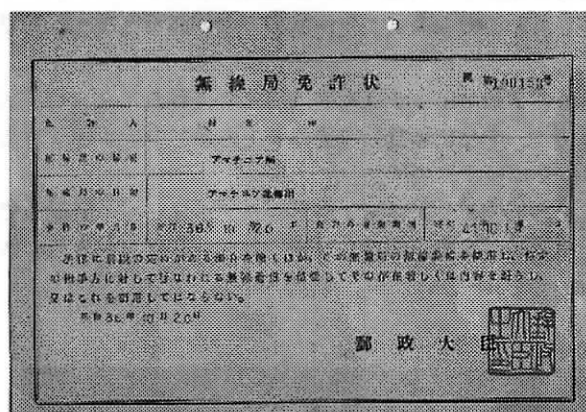
JA1QOZ 幡野さんとは、12才も年上なのに友達付き合いをしていただき、やはり無線以外の分野でも先輩としてご指導いただいたのに、数年前に他界され、とても残念に思っている。

こうして思い出してみると、無線と出会わなかったら私の青春時代は全く違ったものになり、今の私とは違う私になっていたかもしれない。

XYL (JK1HMC 今年1月没) に笑われながら物置にジャンク部品をため込み、時々取り出してはこれで何を作ろうかと想像している時が至福の時だった。数年前に0V1を作ってみたが、ノイズの少ないのに感動した。

新しい技術について行けなかった落ちこぼれハムの私にとって、真空管時代に戻り、縦振れ電鍵を叩き、時代を逆行してみるのも無線を細く長く続ける秘訣かも知れない。

もうしばらく物置のジャンク部品や真空管は、捨てないでおくことにしよう。



## アマチュア無線「バンザイ」

JA1JKN 近藤 喜弘

当局の開局は1961年（昭和36年）12月でありまして、アマ無線に興味をもったのは私が中学校時代に遡ります。当時中学校の文化祭に於いてJA1AOW（斎藤さん）が公開運用をしているのを目の当たりに見て、思わず釘付けになり無線通信に興味を持ったことが事の始まりでした。

無線技術に興味を持った頃、時期を同じくして自身の兄の友人であるJA1EFK（中村さん）を知り、尚更に無線に対する憧憬が深くなったわけです。

写真は開局当時のリグです。

開局当時の無線機器は学生的身であり価格的にも手に届くものでなし、すべて自作機器でした。

私は開局当時よりCWにとっても興味があり、それに加えて送受信機ともCW機の方が回路構成も簡単であり、かつ製作し易いこともあって自作機器での初運用となった訳です。

机の左下のスイッチは送受信切り替え用のスタンバイスイッチで、それに連動して壁の右上方はアンテナ切り替えのリレーボックスです。

机上の下側のリグは高1中2のダブルスーパー受信機です。パネル左側のシーメンスキーはキャリプレート用のスイッチです。



当時の筐体パネルは全て鉄製でしたので穴あけには苦勞したものです。（全て手回しのハンドドリルでした。）

上段は送信機でありまして、開局当時はVFOは未だ使用せず、水晶制御式でした。

送信機の各ステージの調整は、グリッド電流、プレート電流の監視は各ステージごとを単独とした贅沢なものにしました。

各バンドの切り替えは、送信機の右上にあるプラグインコイル（ファイナル）でした。

左側にちょこんとあるのは、二連バリコンを利用したアンテナカプラーです。当時は高周波電流計がとても高価格でしたので、カプラー調整は送信機のファイナルのプレート電流とのにらめっこ状態でした。

開局当時のアンテナは、マルチバンド用の単線給電（すなわち、T型アンテナです）のアンテナであり、このアンテナと自作無線機器でアメリカやヨーロッパの各局との運用を楽しませて頂きました。

ちなみに当時のファイナルは、確か2E26だと思いましたが、出力は7W位だったのかなー？

それでも、世界各国とのアマ無線家との交信が十分楽しめたわけです。

アマ無線バンザイです。



## 開局当時について

JA1LUM 山口 進

横須賀クラブ創設50周年お目出度う御座います。

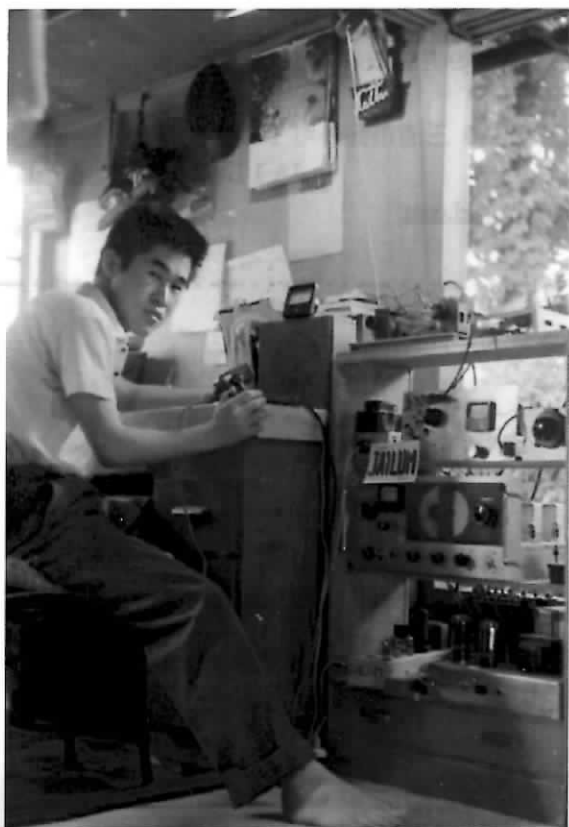
悪友に誘われてアマチュア無線の世界に入り、無線を通して幅広くいろいろな人達と友達になりました。

昭和37年12月28日に開局して、手作りの送受信機により3.5MHz A3で第一声を出しました。送信機は、ファイナル6146シングル、モジュレーター6L6シングル プレート・スクリーン同時変調の構成でした。

受信機は、高周波増幅1段、中間周波増幅2段、アンテナは、地上高約30mH 1/2λダブレットでした。

当時は、学生の身でお金も無く「クズ屋」回りで真空管等の電気部品をかき集め、送受信機を作り、物作りの楽しさを覚えました。

横須賀クラブに在籍中は、池のハタ、および上町の集会場でのクラブミーティングに参加させていただき、無線談義に花を咲かせたり、軍艦三笠からの移動運用等、どれをとっても青春時代の良き思い出となりました。



開局当時のシャック



当時の QSL カード



当時は QSL ビューロー（国内・海外用）  
「ステッカー」がありました。



## アマチュア無線の思い出

JA1LVB 伏見 美幸

JARL 横須賀クラブ創設 50 周年おめでとうございます。ローカルのアマチュア局として心からお祝い申し上げます。

### きっかけ

さて、小生がアマチュア無線に嵌ったのは、中学生の時でした。

当時、学校の授業で「技術家庭」という科目があり、男は「技術科」、女は「家庭科」に分かれて履修していました。この「技術」の授業の中で、「鉱石ラジオ」が紹介されており、簡単な部品構成でもあり興味を持ったのが事の始まりでした。

### 部活はブラバン

後に「団塊の世代」といわれる昭和 22 年生まれの最も人数の多い世代であったため、三浦市立三崎中学校における小生の学年は、1 学級 50 数人の編成で 12 学級あり、学年総数は 650 人近くの生徒数であったと記憶しています。(1 学年上、1 学年下の生徒数もかなり多かった。)

また、クラブ活動は何がしかのクラブに所属するのが慣習で、体育会系・文科系さまざまな部活が活発に行われており、現在のように帰宅部などと称する立場の生徒は殆ど見かけない状況の中で、小生はブラスバンド部に所属していました。

### 先輩ハムとの出会い

「技術」の授業で「鉱石ラジオ」を教えられたその日の放課後、部活の時に先輩に「鉱石ラジオ」の話をしたところ、その内の一人の先輩が「鉱石ラジオならば家に部品があるからあげるよ。」といわれ帰宅後その先輩のお宅を訪問し、ジャンク BOX から「並四コイル」「並四バリコン」「SD46 (ダイオード)」「クリスタルイヤホン」の 4 点をいただき、接続方法や受信周波数による放送局の特定の仕方等を教えられました。

嬉しくて夢中になって先輩の話を聞き終わり、返ろうとした時、机の上で変な音が聞こえるのに気づき、「石渡さん、これは何？」と聞いたところ、「これはアマチュア無線だよ。」といわれ、この時から「HAM の病に感染」してしまいました。

この時、小生にアマチュア無線を紹介し、資格取得・受験勉強の方法など丁寧に教えてくれたのが「JA1GBN 石渡 OM」(現在高知市に在住)でした。なんと、同じ三崎中のブラスバンド部には JA1GBN の同期に「JA1ICO 下里 OM」も在籍しており、部活の時の話題は演奏に関することより HAM の話題が中心になったことはいまでもありません。Hi

### 国家試験受験から開局

OM 達からいろいろ知識をいただき、昭和 37 年

7 月に臨時国家試験が実施された時に受験し、同年 12 月 25 日付けで「JA1LVB」が免許され HAM の仲間入りをすることができました。

開局当初は、RX=TORIO「9R59」、TX=Toyomura「QRP90」、VFO=TORIO「VFO-1」というラインアップで、自作の ANT チューナーで主に 3.5 MHz と 7 MHz で始めました。

アンテナは逆 L 型、ツェップ型、ケージ型、ダイポール型などさまざまな物を作し、実験しました。

### 様々な分野に関わるアマチュア無線

VOY 編集担当の JE1LES 谷口 OM よりご依頼をいただき小生のアマチュア無線入門当時を振り返ったとりとめのない記事になりましたが、アマチュア無線の本質は 40 年も 50 年も続けることの出来る奥の深い趣味であることを多くの皆さんに知っていただき、社会生活の様々な分野に関わる事の出来る可能性をたくさん持っているものであることを改めて認識したいと思います。

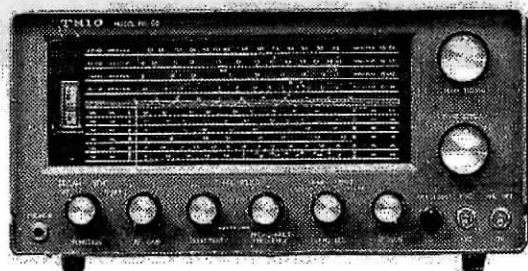
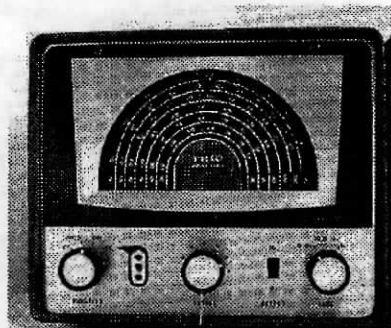
小生も、開局以来 41 年になりますが、これも JARL 横須賀クラブの皆様を始めとした多くの方々にお世話になっている賜物と感謝しております。御クラブの益々のご発展を祈念しまして創設 50 周年のお祝いに替えさせていただきます。

平成 15 年 9 月吉日

238-0245 三浦市海外町 14-36

JA1LVB 伏見 美幸

[jalvb@jarl.com](mailto:jalvb@jarl.com)





## CUT and TRY

JA1LVP 米山 悦弘

JARL 横須賀クラブがこの度、設立50周年を迎えられるそうで、同好の一人として心よりお祝い申し上げます。

振り返って過ぎしこの半世紀は、激動のなか様々な面に於ける変化と進歩、衰退と消滅を乗り越え今日まで組織を維持、運営されてこられた関係者の皆さまの並々なご努力に大なる敬意を表します。

さて、私にとっても同様に人生の大半の年月でありその中の趣味としてのアマチュア無線は時としては夢中になり、また暫くは忘れて仕舞う存在であったといえます。

しかし、これを始めた頃にアマチュア無線はKing of Hobbyと言われていましたが、その意味が今も少なからずOn Airをしている事を考えるとかなりの時間が経過して初めて、正しくその通りであると、実感しています。

過ぎ去った時を甦ることは、幾重にも亘る思いをひも解いていくことですが、その中で不思議なことに、この趣味に手を染め始めた頃のシーンがもっとも鮮明に思い出されます。

その1ページを記してみたいと思います。

### \* OM と SWL

1954年 高校2年生の友人と共作のO-V-1に飛び込んできたのは、JA1ESさんをはじめEH、II、JU、KH、OG、とOMの皆さん。横須賀在住の方々で3.5MHZ A3にてのラグチューの最中、レシーバーを耳に押し当て痛くなるほど聞き惚れる。

そのうちに飽き足らなくなり、ESさんのお宅を訪れOMさん達に初心者として仲間入りを果たす。

当時の皆さんTXは全て自作、RXはUS製のハーランド、ハリクラフター、あるいは旧陸軍製自作ありと様々でした。

アマチュア無線の世界の驚きは、TX、ANTにしても手作りによる個性が溢れた作品を見るようで、同時に物が無い時代の必要は何でも利用しようとする姿勢と共に、そのなかで創ることへの情熱を強く感じたものでした。

例えば、コイル一つにしても吸収型周波数計を使い造っては試し、造って試しの飽くなき努力は今思えばアマチュア精神そのものだったと思います。

ESさんのシャックでのある日、夏ではなかったかと思いますが50MHZのコンバーターにDU6RGのCQをキッヤチ、オーバーシーが珍しくしかも、50MHZということで夢中になり再三コールするもコンタクトNGでしたが、興奮状態が暫く続いたことを覚えています。多分ES層による遠距離反射ではなかったでしょうか。

その後、ESさんはカーテンレールのエレメントによる50MHZのダブレットを自作されていました

が、エキサイティングなQSOの結果は無かったと記憶しています。

### \* 開局 JA1LVP (Love Voice Papa) 1963年開局

電信、電話級のライセンスを得て、社宅の4FでONAIRクリスタルによるチャンネルの時代もVFOになりRX RF1、IF2、TX 807s Sg変調(Mog 6ZP1) A3電波の自作機でした。

勿論、アンテナも竹柱を押し立てたもので我ながら上出来と思ったものです。

OMさん達により培った、あのスピリットが発揮された結果だと思います。

さらに数年後に転勤した社宅でも無線をやりたいが為に、またまた4Fに入り屋上に3エレメント21MHZ専用を立てロケーション抜群のなかブラジル、メキシコ、チリ、アルゼンチンをクリアーしてオーバーシーの醍醐味を満喫しました。

特にハワイのKH6IJさん(2世の方)とは、定期交信すら出来ました。

とまれ、免許の取り易さと、トランシーバーの手軽さは同好者を拡大して今日コールサインも7Nにもなっています。これも技術の発展によりなした結果です。それ自体を云々するつもりはありませんし、素晴らしい一言に尽きます。しかし、物を手で造るという素朴な原点が忘れられようとしている気がしてなりません。

私も50年のキャリアを生かし、どんなアンテナを上げようかと現在考慮中です。若い頃に無かった時間の余裕もあり、大いにHobbyを楽しむつもりです。

どこかで、皆さんにお遭いできますことを願っております。お声を掛けていただいたクラブの皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

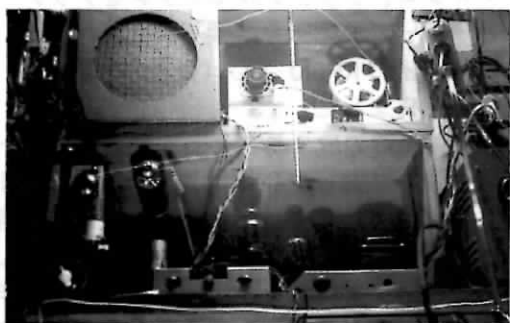
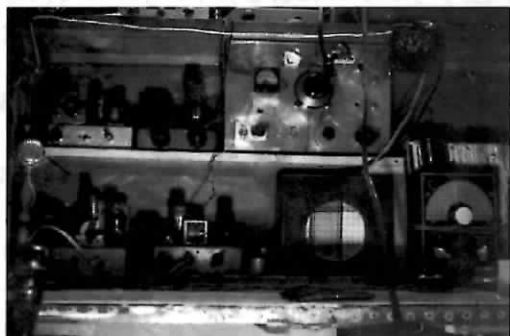


## 開局&再開局

JA1NUJ 杵鞭 清見

私は、今から43年程前にアマチュア無線に出会い、とても興味を持ちました。

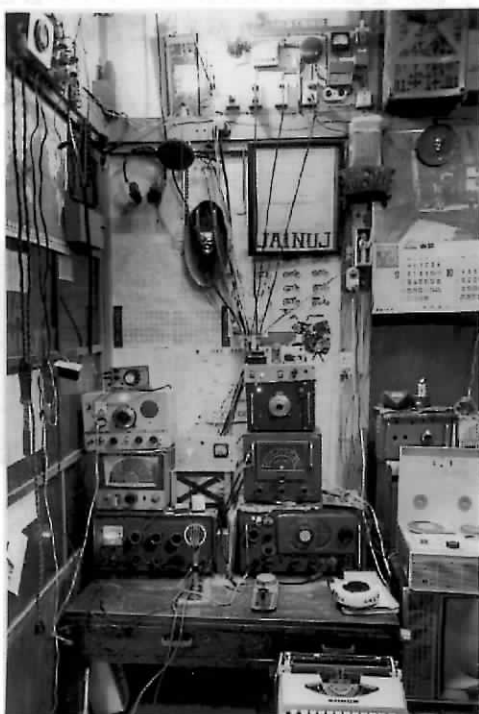
最初は、ジャンクを集め手作り受信機、アンテナでSWLを楽しんでおりました。



ある日、ローカルさんのOMさんのシャックを見学させて頂き色々勉強した事を思い出します。

昭和38年の秋にトリオTX88A・RX9R4Jで念願の開局を致しました。

4～5年間夢中で楽しいQSOの日々を過ごしておりました。



その後、町田市に引越し20数年全く電波を出す事がありませんでした。

そんなある日、昭和62年頃仕事先で大きな八木アンテナが上がっていて、大変驚きました。シャックを見せて頂きましたが、昔のシャックとは全く違い目を見張るばかりでした。そのアンテナを建てたのは、幼い頃から知っているお子さんで大学生になっていました。

色々話をしている内に「JA1のOMさんなら是非Come Backを!!」と勧められ、ふたたび開局を決意致しました。

ライセンスも「2アマ」に挑戦しようと思い、毎日猛勉強しました。年をとってからの勉強は、やはり大変でしたが、平成2年「2アマ」に合格、あわせて初孫も誕生して私には二重の喜びとなりました。あの時の感動は今でも忘れられません。

平成4年、ハンディー機でJA1ITNさんと何十年ぶりにQSOができ大変懐かしく思いました。若林さん経由で横須賀クラブに再入会させて頂きました。

これからもアマチュア無線を楽しみ、色々な方とQSOをしたいと思っております。そして、いつの日か孫とQSOする事が私の夢です。



# 横須賀クラブとの思い出

JA1NVF 吉沼勝美

## 無線の開始と JA1FFP

私が、横須賀クラブの思い出を語ると言っても、あまり無いのが現実です。

ただ、JA1FFP の鈴木さんから、横須賀クラブの多くの縁をいただきました。

小学校5～6年(昭和34年ごろ)ラジオに興味を持って、中学になって家で唯一の並4ラジオを5球スーパーの短波受信機に改造して作った時に、飛び込んできたのが JA1FFP の派手な QSO の声でした。彼の 3.5 MHz の声を聞く為に、次の HAM 用の短波帯の受信機完成となり、そして、電話級アマチュア無線の免許取得、アルバイトの大半を秋葉原に注ぎ、当時開発された AM 波で S メータが振れる、フローティングキャリア変調の送信機の完成そして 3.5 MHz 帯から、このアマチュア無線の世界に入ってきたのが、私の当初の経過です。

当時はお金の無い時代、SSB なる変調の電波を出せるのは金持ちの無線家だけでした。

そこで、3.5 MHz の VFO から直接ダイオード4個でバランスモジュレータを組み、音声の中心付近(1.6 KHz)のみを 0.1  $\mu$ F と 1 k  $\Omega$  だけで 90 度位相変換した PSN で SSB 電波を完成させて出していました。

電波を出すと言っても USB になってるのか、LSB ののか、わからないほどの送信機でした。FFP が言っていたのですが、“NVF がアンテナに変なもの付けて SSB 出してるよ!”

これには興奮しましたね! 高校生で金も無いやつが SSB 出したんですからね。

そのころに横須賀クラブが出来た時期か? 3.5 MHz で横須賀の OM サン達がよく出ていました。

## DX への道

当時はまだ 3.5 MHz や 7 MHz の時代、21 MHz や 28 MHz はほとんど利用していませんでしたが、八重洲やトリオ(現 Kenwood)が HF 機をキットや完成品を販売始めた頃ですので、購入比率が上がってくると 21 MHz や 28 MHz に出る局も増えてきました。

ただ、当時のテレビは IF(中間周波)が 27 MHz であった為、54 MHz に移行されるまで、21 MHz や 28 MHz では TVI から逃れることが、大変難しく、使用不能状態でした。

しかし、メーカ製のキットや無線機が出始めてから、21 MHz や 28 MHz がにぎやかになり、サンスポットも上がってきた関係で華やかに DXQSO が聞こえはじめました。

そんな波に乗ってかなりの局が 21 MHz や 28 MHz の DX をはじめました。

私が当時 28 MHz でちょっと有名になったのも他の局と違って、どう言う分けか 21 MHz より 28 MHz の方が TVI が少なかったから 28 MHz に出たからです。

ただ、DXQSO には少しの英語が出来ないと恥をかきま

す。

この辺のハードルが DX に生き残れたかどうかの草分けだった様にも思えます。

## 当時華々しかった ITN さんの業績

まだ、HF も不十分な時代、144 MHz や 430 MHz がよく飛ぶと色々情報が飛び交う中、横須賀の JA1ITN が最先端の技術を持って、144 MHz や 430 MHz の機器を完成させて出ている話をよく、耳にしました。当時は雲の上の人でした。

まだ、無線を作るには計測器はテスター1個だけの時代です。

そんな中、若林さんの名は VHF、UHF 世界で超有名な存在でした。

## 関係クラブ

### 久里浜開国クラブ

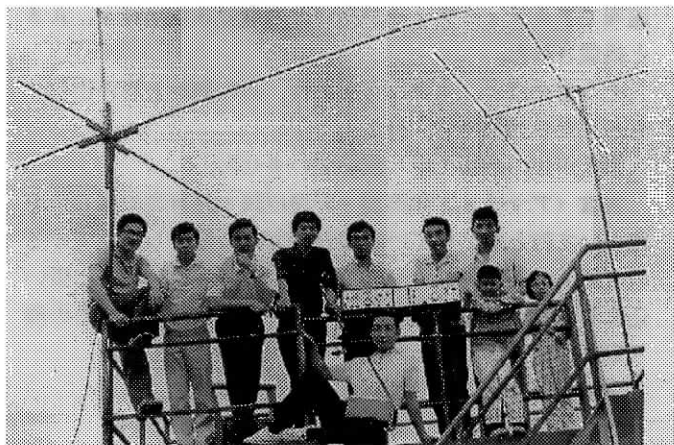
横須賀クラブとは別に JA1FFP 鈴木さんの協力もあり、久里浜開国クラブ JA1ZEB の結成もあました。当時の武山は今の様に道路が良くなりなく泥道でつるつるで雨が降ると車を引っ張りにみんなで降りていったものです。

武山山頂のアゼリアハウスでの 6m & Down は開国クラブが例年使うようになっていました。

### 伊豆スカイラインクラブ

クラブ対抗野球大会、相互訪問など伊豆スカイラインクラブとの交流も盛んに行われました。また当時の伊豆スカイラインクラブの方々も今でも健在で、DX 先へ声をかけてくれます。

写真は 武山アゼリアハウスでの 6m & Down コンテストの時のものです。



当時のことをふと思い出したままに書きました。

「いつか電気の仕事をして、海外に行けたらいいな」と思って自然と進んできましたが、今になって思えば、その夢はみな実現しています。

電気に進むときも JA1HAU のアドバイスを聞き、無線の世界の友人が人生を大いにささえてくれて、楽しい歩みをして来られたのも、横須賀クラブの OM さん方々の導きや友情があつてのことかと最近痛感しています。



## JA1OZJ誕生：四方山話

JA1OZJ 山田遼一郎

JARL横須賀クラブ創設50周年

おめでとうございます

### \*まえがき\*

平成5年12月にJARL横須賀クラブ40周年記念式典に案内をいただき、出席させていただいたのが、つい先日のように思い出され、記念号を発行するので開局当時の様子を紹介する様な原稿執筆依頼がJARL横須賀クラブ会長：JA1ITN・若林さんからあったので、保管しているクラブ関係の資料を紐どいてみたがやはり、開局の地横須賀は懐かしい思い出が一杯です。

当局も早いもので来年で開局40周年になります。

開局した横須賀在住は、1964年(昭和39年)開局動めの関係で1968年に東京都八王子市に転居、4年余りのアマチュア無線局在横須賀期間でしたが、アクティビティは最高だったと自負しております。

製作は、真空管の大きいから小さいエーコン管、1967年にはハンディ可能な全部トランジスターの送受信機、オンエアに、ミーティングに、鉄屑屋ではなくて古物商かな、あさりに暇に飽かしてではなくて非常に忙しい合間をぬって、Hi ローカル局と古物商に日参、情報交換は夜のラグチューで、戦果も含めて、横須賀ではご存じの通り船舶の「アメジャン」でも短い波長の部品が多かったが、非常に助かったのを懐かしさの余り思い出しております。

懐かしい題名1964,09 Voice of YokosukaのNo. 105号にJA1OZJ局誕生記、1964,07のVOY No. 104号に久里浜海岸移動記でそれぞれ寄稿、そして1966,12のVOY No. 109号に当局のシャック、アンテナの写真が編集氏の説明と共に、(歴史のページ参照 注:編集子)さらにバンド速報でアクティビティが高いとの事で50MHz、A3と掲載された。

そう言えばと、中身はともあれ、あの局かと思ひ出してもらえたら光栄です。Hi!!

まえがきの余韻で申し訳御座いません。

古書(アマチュア無線局・開局申請・許可書の綴り)を紐どいて何となく見ているのと、原稿の種として見ているのでは昔の面影の濃さが違うので、つい良き時代?に吸い込まれる我が身にふと我に返り、ワープロの前に戻るの繰り返しの数週間であった。

まえがきが長くなりましたソロソロ本題に。

この辺の物の書き方は昔と同じでしょう。

まえがきでほぼ1ページ(いただいた原稿が1ページでした・注:編集子)を使うのは文章が取り留めないのか?まあ、要約でも概要でもなく前書きなのでご勘弁を。

### \*SWL時代\*

SWLを始めたのが横浜在住の1948年(昭和23年)の高校生の頃から、リグは高1、中2(勿論ST管)でアンテナはシャレタ8JK。残念ながら、その当時のログが見当たらず、何年に取得したか定かではないがJARLのSWL番号はJ1-487、UBAのONL-71。

何時、開催されたか思い出せないが横浜大博覧会が開催され、その時米軍の「軍用補助局」(アマチュア無線局)がフォーパッチを14MHzで盛んに電波を出しているのを聞きつけ、ガリ版刷りの自作SWLカード(残念ながら1枚も残っていない)を持って訪局(KA2KA)ついでに1週間前に帰国した米国の友人へ電文送信を依頼したら、早く送ってくれた。

その代わり?ではないが、そこに座れと閉局まで周波数を変えるたびに「ゼロビート」をとるのに手伝われた事が思い出される。

キーを(電鍵ではない)叩いている内に当時は、1951年かもしれないと思ひ出した。

訪局の場所は、博覧会の中で今の伊勢佐木町通りと大岡川の間で開催されていた。

終戦後、接收されて軽飛行機の飛行場になっていた。

そこに軍用の無線トラック(内部にBC-610?送信機がセットされており、受信機は外の机の上にありBC-??)にホイップアンテナで運用していた。

オペレーターがハワイの2世で、少し日本語がしゃべれたのでヤレヤレ。

次ぎに思い出すのは、横須賀各局との交流は未だ官舎が出来ないので追浜に仮住まいしていた頃、きっかけは忘却の彼方であるが、JA1BHZ岡田さん宅で電信の練習会合に数回出席させて戴いた時、JA1IV故逸見さんと懇意になったのもその頃でした。

その頃は、当然自作の高1、中2の受信機(コイルパック、IF 455KHz)でアンテナはロングワイヤーでSWLをしていました。

家主に見つからない様に屋根裏にアンテナを張った。

送信しないのに何故?見慣れない受信機などは電気代を余計に取られるから?

開局迄の間に色々エピソード(本人はそう思っている。Hi)が詰まっているが、それはそれとして開局にこぎつけよう。

### \*やっと開局\*

無線局誕生日は、1964年(昭和39年)2月20日設置場所と常置場所(理由は、もう少し読めば判る)は、当時の久里浜駅と貨車の久里浜駅の間に出来た運輸省官舎でQSLカードの通り。

|                                                        |            |                 |
|--------------------------------------------------------|------------|-----------------|
| KANAGAWA JAPAN                                         |            | No.             |
| JA1OZJ                                                 |            |                 |
| To Radio                                               | Confirming | Our QSO On      |
| AT                                                     | 15T/GMT ON | 196 Ur Sigs RST |
| QRM                                                    | QBN        | QSB             |
| INPUT                                                  | W          | Rx              |
| RNX:                                                   |            |                 |
| TXN FS QSO PRE QSL TXN                                 |            |                 |
| QTH 1176 Uchikawa Shinden Yokosuka-city Kanagawa Japan |            |                 |

もう1つの呼出符号は、JA1PCC、これは移動局用無線局申請時に移動運用が許可されていなかったバンドがあり、固定局、移動局を同時に申請したら、